

留学先国名 : カナダ

留学先学校名 : マクマスター大学

留学期間 : 平成 27 年 8 月 30 日 ~ 平成 28 年 5 月 30 日

私はカナダのハミルトンという町にある、マクマスター大学に約 8 ヶ月間通っていました。その間秋学期と冬学期があり、1 学期に 4 つの授業を履修しました。どの授業も週に 50 分×3 コマあり、毎回の授業前に課せられるリーディングや、頻繁に出されるエッセイなどの課題によく追われていました。3 コマある授業のうち 1 コマはチュートリアルという少人数クラスが行われることあり、そこでは自分の意見を積極的に言ったりクラスメイトと話し合うことが求められました。

留学中は大学の学生寮で生活していました。私の寮はキッチンやバスルームは共有しつつも、それぞれの部屋があるアパートタイプと呼ばれる部屋で、カナダ人、イギリス人、ニュージーランド人と私の 4 人で住んでいました。お互いに必要以上に干渉することなくそれぞれの生活を送っていたものの、部屋で居合わせたときは会話を交わしたり、同じ部屋に人が住んでいるという安心感を得られ、居心地がよかったです。

課外活動としては、留学生のサークルに入り世界中から集まってきた留学生たちとの交流を楽しみました。はじめは留学先に知り合いがおらず不安でしたが、テスト勉強を一緒にしたり、空いた時間には遊びに行くなどできる友達がこのサークルをきっかけにできました。他にはダンスのクラスにも参加していました。運動不足を解消するとともに、共通の趣味を通して現地の人とつながることができました。

留学中、勉学の面でも生活の中でも感じたり学んだりすることは数多くありました。まず勉強の面では自分の専門の知識を深めること、そして専門にとらわれず広い分野で学びを深めることができたと思います。

自分の専門である言語学の学習については、秋学期に言語学の基礎の授業を履修し、言語学の基本知識の確認と、英語で言語学を学ぶ経験を得ました。この授業で、曖昧だった基礎知識を再確認できたこと、またそれを英語で学べたことで、英語で書かれた言語学に関する論文を読む力などがつき、さらなる学びに活かせる学習ができました。特に、英語の論文を抵抗なく読めるようになったことで、より多くの情報源をもとに学習できるようになり今後非常に役立つと思います。加えて、英語に限らず他の言語も考慮した言語学の学習ができ、知識が広がりました。冬学期には社会言語学の授業を履修しました。社会言語学では文化と言語の関わりに焦点を当て学びました。言語の違いはその話者の世界観に影響を与えるという考えに基づいて、日本語と英語の違いによって日本語話者と英語話者の世界観も違うという考察を行ったりしました。留学先で学んだことを生かし日本の大学に戻っても、社会言語学の学習を継続しようと考えています。

専門以外で学んだのは、マーケティング、日本文化、政治経済、グローバリゼーション、フランス語です。数カ月にわたるグループワークの末クラスの前でプレゼンテーションをしたり、チュートリアルでクラスメイトと意見を交わすなど、普段日本の大学ではあまり経験したことのない形式での学びを得られました。またチュー

トリアルによって、以前より多様な視点から物事を考えられるようになったり、今現在起こっていることについて考えるようになりました。これらの授業からの学びは直接的には自分の専門の言語学とは関係がなく思えるかもしれませんが、思いがけず役に立つことがあったり、学問以外の面でも生かされることがあると思っています。

生活面では、人々の多様性を受け入れること、そしてコミュニケーションを十分に取ることの大切さを感じました。カナダは移民の多い国であるため、周りを見渡すとありとあらゆる人種の人々がいました。そのため私も見た目で外国人と判断されることがなかったり、外国人とわかってでも全く珍しがられませんでした。英語もネイティブのように話せるわけではありませんでしたが、だからと言って会話の中で特別扱いされることは良くも悪くありませんでした。自分とは違うものとして距離を置くのではなく、違いに過剰に反応せず受け入れる、というのはグローバル化がうたわれる世の中において求められると思います。また違いがあるからこそ十分にコミュニケーションをとって、自分の思いを伝えることは大切だと感じました。自分にとっての常識は必ずしも相手の常識ではありません。例えば、嫌なことは嫌だと言わなければ分かってもらえないのだと、多様な人々と生活を送る中で気付きました。

もう1つ私が強く感じたことは、日本の製品の質の高さです。友達と一緒にいると頻りに文具や持ち物の質やデザイン性を褒められました。私にとっては何でもないものだったので不思議に思っ買い物に出かけてみると、似たような商品だとより高い値段で、ときにはより価格は高いが質は低いものが売られており、日本の低価格でも高品質の製品を作る技術は素晴らしいと実感しました。これらの気づきから将来、多様な人々とのコミュニケーション能力を生かし、日本の良い製品を様々な国で普及させ、現地の人々の生活の質を上げると同時に、日本経済にも貢献できたらと考えています。

これから留学へ行こうとしている人へのアドバイスとしては、3つあります。初めの2つは出発前に関する事で、まず1つに当たり前とは思われるかもしれませんが語学力に自信を持ってないのであればできるだけ上げてから臨むのがよいと思います。留学に行けばなんとかなるという考えでは甘いですし、会話や議論についていくのに苦労したり、授業も理解できなかったりといいいことは何もありません。逆に語学力があれば、人とコミュニケーションが取りやすく、人とのつながりも増えますし、授業の理解も深まります。留学生活をよりよいものにするために、出発前にできることはなんでもやっておくとよいと思います。次に不安の解消法です。私も私の友人も含め、留学に行く前は不安をたくさん感じていました。その不安を生み出す原因の1つは知らないことが多いことだと思います。多くの人にとって留学では行ったことがなかったり、知り合いもいなかったりする国や地域に行くことになると思います。そんな場所で、ある一定期間学ぶことになるので不安になるのは当たり前だと思います。その不安を解消するにはその場所やそこでの生活を知ることがひとつの手段となると思います。簡単な方法だとインターネットで調べたりもできますが、私がやって一番良かったのは実際に同じ場所で学んだ方から話を聞くことでした。留学先の大学の話、授業の話、その町の話などを聞くことで、少しでも自分の留學生活のイメージを具体的に持つことができると不安も解消されると思います。3つめに留学先ではできる限りアクティブになるとよいと思います。無理をする必要はありませんが、せっかくの留学ですし期間も限られているでしょうから、始めのうちから様々なことに挑戦し、どんどん外に出ている人々と出会っていくとよいと思います。

最後に、私が留学をして後輩に伝えたいことの1つは、もし留学に行きたいという気持ちがあるのなら挑

戦してみるべきだということです。私自身留学に行くか迷った末に行くことを決めたので、迷う気持ちはよく分かりますが、行ってみないと分からないことはたくさんあります。留学に行かなくても不自由なく学生生活を送ることができます。しかし、学生時代に大学へ留学するという経験は今しかできません。もちろん留学に行くという事実だけで満足することはよくないですが、留学の経験から少なからず何かを学び取ることができたらそれは非常に意味のあることだと思います。留学へ行くにあたっての障壁は人それぞれあるかと思いますが、ぜひ乗り越えて挑戦してみてください。応援しています。